

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美(すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、こんにちは。時々「子育てひろば、読んでますよ！楽しみにしています。」とお声をかけていただきますが、大変励みになります。ありがとうございます。今回は、「**生きる力（非認知能力）を育てる**」ために大切なこと**その③**をお届けします。

未来にフォーカス！ 考える力を育てる

子どもに
伝えたいメッセージ

成長するために
失敗して学ぶこと
が大事だよ。



前を向ける言葉です。

❖失敗を叱る前に、一呼吸。

「次はどうする？」

「どうしたらいいか一緒に考えよう。」

優しく話せば子どもは安心し、
また挑戦する勇気が生まれます。



私たちはつい、
「何でできないの？」
「何でわからないの？」
「それ、前も間違えたよね。」

など、子どもの失敗や結果を責め、「失敗を恐れずチャレンジする勇氣」を粉々にしてしまいます。だから、子どもは自分を守るために、失敗を隠そうとしたり、嘘をついたりしてしまうのです。失敗しない学びはありません。失敗は成長のための財産です。子どもに、あなたの失敗経験や、失敗から学んだこと、立ち直ったことなどを話してみましょ。失敗を次に生かそうと考えることは、自分で考え成長する習慣や問題解決能力の向上につながります。

失敗を、
「いい失敗だったなあ」と考え、学びのチャンスだと思えるようにしたいですね。

★ASK, SAY, DO で子どもの考える力を育てます★

ASK (尋ねる)「次はどうする?」「どうすればうまくいくと思う?」「何をするんだっけ?」

SAY (言う) 子どもに答えさせます。「〇〇してみる。」期待通りの答えでなくても、失敗すると分かっていても「やっごらん。」と励ましてください。

DO (やってみる) うまくいけば、ほめましょ。うまくいかなければ、もう一度 **ASK** から始めます。ASK, SAY, DO を実践すると、自分で考えてできた時にドーパミンが前頭前野に大量に出て、問題解決能力(非認知能力の一つ)が育ちます。

失敗した時やその前に「〇〇しなさい。」と指示をし、守らなければ叱ってばかりいたら、子どもは指示なしで動けなくなります。家では親の言うこと、学校では先生の言うこと、会社では上司の言うことを聞き、自分の頭では何も考えられなくなってしまう指示待ち人間になってしまいます。失敗した時こそ、自分で考える力を育てるチャンスです。「どうしたらいいと思う?」と聞き、考えさせる。そして、答えがすぐに出なくても、信じてじっと待ちましょ。